

里地里山の保全・活用の取組における課題と技術的方策等

分類	持続可能な利用のための伝統的技術の保存、新たな利用技術の開発
手法名	多層林化による持続可能な森林管理と木材活用の促進
主体	加子母森林組合
背景(地域の課題)	持続的な里地里山管理の阻害要件の一つとして、植林から伐採までの期間が長いため、その間収益を確保できないということがあげられる。保全活動における里地里山資源の持続的活用は、経済的な側面からも管理者のモチベーションとなるべきものだが、現状では、環境・仕組みともに整備が十分になされていない。
手法／方策の詳細	<p>加子母森林組合では、多層林化により森にかかわる現世代の収益性を確保することで、山主に対して里地里山の手入れを行うモチベーションや継続性を高めようとしている。</p> <p>1) 多層林化による管理者の持続的なモチベーションの確保 110年、80年、50年、20年以下と30年ごとに伐採間隔をあけることで、どの世代でも収入となりみんなが関心を持って山づくりにかかわる森作りを手掛ける(四世代同居の森づくり)。また、上層木80年、下層木4年とする2段林等にし、一部の木を傷つけずに残して伐採するきめ細かな作業を行っている(写真1)。 森の多層林化は世代を超えた安定的な収益性の確保につながることから、継続的な森林の手入れを行うモチベーションを高めることにも貢献する。</p> <p>2) 資源活用と異分野・消費者との連携手法 木材活用を図るためには消費者や異業種との連携を深めることが重要。消費者のニーズをマッチングさせる取り組みとして以下の手法が考えられる。</p> <p>① 木材市場 木材市場は木材の品質を競うだけではなく、間伐材の有効活用や世代を超えた森づくりの成果が認められるといった多様な意味ももっており、理解ある買い手とのつながりを作る場にもなる。</p> <p>② 都市住民の理解 森の良さを都市住民などに体験してもらうため森林ツアーを実施し、地元材を使用した住宅への関心の向上を図っている。</p> <p>③ 各主体の連携 森林組合、製材所、プレカット(※)工場といった各主体が連携してモデル住宅を作っている(写真2)。</p> <p>※プレカット (precut) とは、住宅建築において木工事部分について現場施工前に原材料を切断したり加工を施すこと。</p>
手法・技術的視点	あらゆる世代に収益性を見込める4世代同居の森作りや、すべてを伐採しない2段林等の試みによる地域側の意欲の向上、異業種の連携による体制作り、理解を構築するツアーなどによる外部との連携で、里地里山、農山村の持続的な保全と活用の事例となる。
 	
写真1	2段林の植栽(上層木80年生・下層木4年生)
写真2	農商工連携のモデル住宅建設
参考資料	里なびin神奈川 加子母森林組合長 内木篤志